



かんすい

日本水環境学会関西支部ニュースレター

No.16

(2013年3月1日発行)

— 編集・発行 —

日本水環境学会関西支部

— 連絡先 —

〒543-0026 大阪市天王寺区東上町8-34

大阪市立環境科学研究所 新矢将尚

E-mail: ma-shinya@city.osaka.lg.jp

Tel: 06-6771-3196 Fax: 06-6772-0676

第47回日本水環境学会年会～関西支部企画のご紹介～

皆様もご承知の通り、第47回日本水環境学会年会が3月11日(月)から13日(水)までの3日間、大阪工業大学大宮キャンパスで開催されます。関西支部では、川部会によるセッションや体験型見学会、基礎的な技術に関するセミナーを企画しました。多くの方のご参加を期待しています。なお、年会全体の内容やタイムテーブルは学会誌2月号や学会ホームページに掲載されています。

● 関西支部企画セッション「“文理融合”の総合的視点で川を考える」

川を対象とした調査・研究は、自然科学の多くの分野で行われ、人文・社会科学の分野でも歴史・文化、法律、流通・地域経済などの分野を中心に進められてきました。東日本大震災以降、両分野にまたがる防災科学からのアプローチも活発になっていますが、両分野の研究者が有機的に結合したアプローチは多いとは言えません。こうした中、関西支部川部会は「治水・利水・環境」のみならず「歴史・文化」の視点も内包した問題意識で関西の川の再評価に取り組んできました。本セッションは、“文理融合”の総合的視点で身近な川をもう一度考えるために、全国の研究者と情報・知見を共有することを目的としていますので、皆様ぜひご参加ください。

【日時】 2013年3月13日(水) 15:15～17:00

【場所】 年会A会場（大阪工業大学大宮キャンパス1号館121教室）

【プログラム】（座長 福永 勲・古武家善成（関西支部川部会））

- 15:15～15:30 川部会活動の歴史と視点…………… ○土 永 恒 彌（関西支部川部会）
- 15:30～15:45 「川歩き」を科学する…………… ○奥 野 年 秀（関西支部川部会）
- 15:45～16:00 川歩きリーフレットの「文理融合」度を考える…………… ○古武家善成（関西支部川部会）
- 16:00～16:15 社会との関わりから見た河川の歴史～北海道の美々川を例として～…………… ○余 湖 典 昭（北海学園大）
- 16:15～16:30 河川文化の視点からみた神田川…………… ○風 間 真 理（東京都環境局）
- 16:30～16:45 河川を考えるー北九州ー…………… ○原 口 公 子（北九州市立大）
- 16:45～17:00 全体質疑

● 年会併設平成24年度日本水環境学会関西支部見学会

大阪市内河川や水の関係施設に関わる名所を、自分の足で見て実感する体験型見学会“水都おおさかオリエンテering”を実施します。第47回年会に併せて実施しますので、気軽にご参加ください。なお、チェックポイントを通過した方には、淀川の治水と歴史に関する書籍を差し上げます（先着20名）。

【日時】 2013年3月12日(火) 12:30～17:20

【行 程】

①中之島界限巡りコース

年会会場【12:30～14:00受付】→「田蓑橋」→「大江橋」→「淀屋橋」→「中央公会堂」→「難波橋」→「天満橋」→「アクアライナーによるリバークルーズ」→年会会場【17:20到着】

②安治川トンネルと大正周辺コース

年会会場【12:30～14:00受付】→「安治川トンネル」→「河村瑞賢紀功碑」→「大阪市電創業の碑」→「木津川橋梁」→「岩崎運河橋梁」→「交通科学博物館」→年会会場【17:20到着】

※コースの詳細につきましてはお申し込み時に説明いたします。

また、関西支部ホームページ (<http://www.jswe-kansai.com/>) にてお知らせしています。

【定 員】 なし（但し、書籍のお渡しは先着20名）

【参加費】 200円（参加費は旅行傷害保険料に充てます。交通費、アクアライナー乗船料及び交通科学館入館料は各自で負担をお願いします。）

【申し込み方法】 年会会場（大阪工業大学大宮キャンパス1号館）にて当日受付

【問い合わせ先】 年会実行委員会事務局（見学会担当） E-mail: excursion47@jswe.or.jp

●年会併設日本水環境学会関西支部企画セミナー

「そこが知りたい！水環境研究の基礎技術講座」

水環境研究を進める上で、教科書にも載っていない、授業でも習わないけれど、知っていないと研究が進められない基礎的な技術や、知っているのと役に立つノウハウなどがあります。第47回年会では、特別会場を設けてそうした実践的技術を初歩から分かりやすく説明する場を設けます。カフェセミナーやランチョンセミナーの形式で、企業の担当者によるセミナーも開催します。その道の専門家のノウハウを知りたい研究者、これから本格的に研究を始める大学院生、異分野への展開を検討している研究者などが対象となります。セッションの空き時間などに気軽にお越しください。

【日 時】 2013年3月11日（月）～12日（火）

【場 所】 年会特設会場（大阪工業大学大宮キャンパス1号館143教室）

【プログラム】

3月11日（月）

9:00～10:30 ラジカルを測る－ESRの基礎と応用－

10:45～12:15 これから始める放射線測定と環境モニタリングへの実用例

12:15～13:30 意外と知らない超純水の基礎と再現性を高める超純水の使い方のコツ【ランチョンセミナー形式】

14:00～15:30 固相抽出の基礎【カフェセミナー形式】

15:45～17:15 水質測定の基礎講座－意外と知らないpH、EC測定について－

3月12日（火）

9:00～10:30 はじめてのモデルシミュレーション－モデルの考え方・作り方の基礎と応用－

10:45～12:15 腐植物質（フミン物質）基礎講座

12:15～13:30 無機を測る－ICP質量分析の基礎－【ランチョンセミナー形式】

【参加費】 無料

【申し込み方法】 申し込みは不要です。ただし、ランチョンセミナーではお弁当とお茶、カフェセミナーではスイーツと温かい飲み物を先着80名に無料でご提供いたします。直接会場にお越しください。

【問い合わせ先】 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 佐藤祐一（TEL: 077-526-4044、E-mail: sato-y@lberi.jp）

2012年度支部表彰

2012年度の支部表彰では、次の方々を受賞されました。2012年11月26日に表彰式が行われ、受賞者の皆様から研究内容や活動内容について講演をしていただきました。

関西水環境

中室克彦（摂南大学理工学部 教授）

受賞理由： 遺伝毒性・内分泌攪乱性評価法などを中心とした水環境を通じての人への影響に関する研究

奨励賞

田中周平（京都大学大学院地球環境学堂 准教授）

受賞理由： 琵琶湖岸ヨシ群落の植生構造分析とその保全・再生に関する研究

社会・文化賞

特定非営利活動法人 家棟川流域観光船

受賞理由： 山・川・里・湖の「つながり」を再生する市民活動

部会便り

川部会

【連絡先】 部会長 福永 勲 E-mail: EZX00202@nifty.ne.jp

1. 川歩き活動

前回ニューズレター以降の活動を報告します。まず2012年4月28日高原さま・奥野さまコーディネートで加古川探索を行いました。今まで、加古川は電車で渡ったことはありますが、中流から河口までつぶさに見たことはなく、兵庫県最大の大河であることをあらためて知りました。次は、7月22日国松先生コーディネートで瀬田川に流入する大戸川を探索しました。まず、瀬田川・大戸川合流地点では、大戸川は急流で氾濫河川らしく、合流直前には落差工が何段にも施された後、さらに背割堤があって、瀬田川に平行するように合流していました。つぎに、今も現役の関電大戸川発電所、その他紫香楽宮跡、滋賀県立陶芸の森を見学しました。10月13日には山本さま・川上さまコーディネートで、木津川上流伊賀市内付近を探索しました。あわせて、水車群、城の越遺跡、浸水記録標、遊水地と越流堰、岩倉峡、などの水文化施設だけでなく、神戸神社、美旗古墳群などの歴史文化も見学しました。次に、11月17日には京都西北山の河川を海老瀬先生のコーディネートで探索しました。天神川と御室川の合流点、双ヶ丘、広沢池、清滝川、大覚寺大沢池、有栖川、斎宮神社、平野神社、紙屋川、御土居、源光庵、光悦寺門前参道、紙屋川原谷川合流点、しょうざん庭園を見学しました。いずれのところでも紅葉を堪能しました。その後、最後に金閣寺を参拝し、特別にいろんな所を見学させていただき、感動しました。今年度最後の川歩きは、12月15日芦屋川・住吉川を古武家さまのコーディネートで探索しました。芦屋市奥山浄水場から、その後芦屋川沿いに有名なF. ライトが設計した旧山邑家住宅で現在のヨドコウ迎賓館、芦屋仏教会館、芦屋モリノス（旧逋信省芦屋別館）、芦屋警察署旧庁舎玄関、午後は住吉川沿いに白鶴美術館から細雪で有名な谷崎潤一郎の旧宅「倚松庵」まで歩きました。



【写真】紅葉に映える清滝川(2012・11・17)

2. 例会

開催日は、前回のレター以降では、下記の通りで、その時々々の川歩き行事の企画・確認、リーフレット発行・環境技術連載などを相談決定しました。場所は、いずれも駒井副支部長に常翔学園大阪センターをお借りしていただきました。・2011・12・3、2012・2・16、2012・6・2、2012・7・12、2013・1・12。

3. リーフレットの発行および「環境技術」誌連載

「琵琶湖・淀川 里の川をめぐる～ちょっと大人の散策ブック～」を(財)琵琶湖・淀川水質保全機構と(社)近畿建設協会との共同企画で発行しています。5編にわけて随時発行の予定で、昨年以降ではNo.6「鴨川・明神川」編発行:2012年3月、No.7「恩智川・生駒川」編発行:2012年3月、今年間もなくNo.8「名張川」編、No.9「猪名川」編、No.10「琵琶湖疏水」編、No.11「中河内の川」編、No.12「赤野井湾流域河川」編の発行を予定しています。

また、2012年9月から「環境技術」誌に続関西の川歩きを隔月連載しています。2012・9月号「大川と大阪市内洪水津波高潮防止施設の探索」、11月号「西表島・石垣島の川一南の島のロマンあふれる秘境の川一」、1月号「名張川(なばりがわ)・月ヶ瀬溪谷一万葉時代の歴史を醸し出す「名張の宿」一」で、以降2014・7まで計12回連載の予定しています。

4. その他の学会活動

2013年3月11～13日の第47回日本水環境学会年会研究発表会にて関西支部企画セッション「文理融合の総合的視点で川を考える」を担当して、発表もする予定です。

2012年度 関西支部役員名簿

顧問	井上 頼輝 京都大学名誉教授 福永 勲 元大阪市立環境科学研究所 山田 淳 立命館大学	奥野 年秀 元財ひょうご環境創造協会 中室 克彦 摂南大学	寺島 泰 京都大学名誉教授 村岡 浩爾 大阪大学名誉教授
名誉理事	海老瀬 潜一 摂南大学 園 欣彌 元兵庫県立工業技術センター 藤田 正憲 大阪大学名誉教授	國松 孝男 滋賀県立大学名誉教授 土 永恒 彌 元大阪市立環境科学研究所 松井 三郎 京都大学名誉教授	宗宮 功 京都大学名誉教授 中本 雅雄 NPO大阪環境カウンセラー協会 和田 安彦 関西大学
支部長・理事	池 道彦 大阪大学		
副支部長・理事	長谷川 進 ㈱神鋼環境ソリューション	駒井 幸雄 大阪工業大学	八木 正博 神戸市環境保健研究所
理事	天野 耕二 立命館大学 有 菌直樹 京都府保健環境研究所 竺 文彦 龍谷大学 田口 寛 日本メンテナンスエンジニアリング㈱ 中島 淳 立命館大学 福嶋 実 元大阪市立環境科学研究所 山田 春美 元京都大学 米田 稔 京都大学	飯田 博 ㈱ガンマー分析センター 貫上 佳則 大阪市立大学 鷺見 健二 財ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター 津野 洋 大阪産業大学 服部 幸和 元大阪府環境農林水産総合研究所 藤井 滋穂 京都大学 山中 芳夫 大阪学院大学	石川 宗孝 大阪工業大学 古武家善成 神戸学院大学 高原 信幸 元神戸市環境保健研究所 内藤 正明 滋賀県琵琶湖環境科学センター 平田 健正 和歌山大学 森澤 眞輔 京都大学 芳倉 太郎 元大阪市立環境科学研究所
監事	中出 昌宏 ㈱クボタ	中野 武 財ひょうご環境創造協会	
幹事	長 新矢 将尚 大阪市立環境科学研究所		
幹事	浅野 昌弘 龍谷大学 上堀 美知子 (地独)大阪府立環境農林水産総合研究所 兔 本文昭 奈良県保健環境研究センター 門口 敬子 ㈱関西環境管理技術センター 北本 寛明 兵庫県立健康科学研究所健康科学研究センター 斎藤 方正 大阪広域水道企業団 田口 寛 日本メンテナンスエンジニアリング㈱ 肥田 嘉文 滋賀県立大学 藤原 康博 大阪市立環境科学研究所 宮崎 一 財ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター	飯田 博 ㈱ガンマー分析センター 遠藤 徹 大阪市立大学 大久保 卓也 滋賀県琵琶湖環境科学センター 蒲 敏幸 京都府保健環境研究所 小泉 義彦 大阪府立公衆衛生研究所 佐藤 祐一 滋賀県琵琶湖環境科学センター 田中 周平 京都大学 広谷 博史 大阪教育大学 船石 圭介 アタカ大機㈱ 山林 右二 東大阪市上下水道局	市木 敦之 立命館大学 奥野 智史 摂南大学 笠原 伸介 大阪工業大学 川崎 直人 近畿大学 後藤 敦子 尼崎市立衛生研究所 高浪 龍平 大阪産業大学 濱崎 竜英 大阪産業大学 藤井 俊樹 財ひょうご環境創造協会 三浦 雅彦 ㈱神鋼環境ソリューション 和田 桂子 財琵琶湖・淀川水質保全機構